

平成 31 年 2 月 20 日

2 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県内では好天が続き、とくに県北地域では皆伐施業による生産量が増加している。県内各共販所への入荷もバラツキはあるが、平年並みに回復してきた。スギ原木は入荷量が目に見えて増加しているためか、全体で値を下げた。ヒノキ原木は製材所の手持ち在庫が薄いこともあり保合いで推移。価格が下がると、製材工場は在庫手当をすることから、先行き値下げに転じるものと予想される。

群馬県では降雪が少なく、原木の出材は比較的順調なため、徐々に集荷はしやすくなった。操業は順調で年度末の公共工事等の注文で比較的忙しい。首都圏の製品市場からの注文は増えているが、地場の製品市場、材木店、工務店からは低調である。在庫は羽柄材、構造材等は全体的に品薄だが、構造材は増えつつある。原木価格は少しずつ落ち着き始めているが、製品価格が原木価格の上昇に未だ追いついていない。

2. 米材

米加産地の出材は順調。米国内の港頭在庫は潤沢な水準を維持。一方、カナダでは順調な出材ながら在庫水準は依然低い。ウェアハウザー社の 2 月積み対日価格(推定)は前月比横ばいの\$860。産地サプライヤーが第 1・四半期の出材を絞っており、国内価格が反転し、輸出価格も底打ち。原木の在庫環境は米加間で隔たりがあり、価格推移も米加で温度差のある状態が続いている。産地製材品価格は 2 月第一週に急反発。ランダムレングス紙発表の 15 種平均価格(2/2)は\$354/M で 1 月頭に比べ、8.6%のアップ。ディメンション材は各社の生産調整が功を奏し、現地価格は反発している状況。カナダの大手ディメンション工場では 3 週間生産を止めることを発表しており、第 2・四半期以降の価格に影響が出てくる模様。

12 月の原木入荷量 161 千 m^3 と前月に続き低調、2018 年累計で 2,553 千 m^3 (前年 2.0%増)、出荷量は 170 千 m^3 、累計で 2,584 千 m^3 (同 2.7%減)と入荷同様に漸減。在庫はさらに減少し 167 千 m^3 、在庫率も 0.80 ヲ月と 1 ヲ月を割ったままで、米材史上最低水準を更新している。国内の米材製材工場の 1 月の出荷は好調だったが、2 月に入り出荷ペースが若干落ちた模様。1 月の東京木材埠頭の入荷は 25 千 m^3 (前月比 2.6%減)、出荷は 22 千 m^3 (同 2.8%増)、在庫は

61 千 m^3 (同 5.1%増)。

3. 南洋材

サバ州では本格的な雨季入りで伐採は低調。サラワク州では原木輸出禁止が公式発表された。時期には言及していないが、国内の加工体制が整備される 2~3 年後と予想される。FOB 価格はインドが買い支えており高値安定。PNG では生産が比較的良好で対日向け集材も順調である。FOB 価格は中国向けが弱いが、日本、ベトナム、韓国が市況を支えている。2 月予想の原木入荷、出荷量は 17 千 m^3 、在庫量は 33 千 m^3 、製材品入荷は 35 千 m^3 。製材品の半分を占めるフリー板の市況が低迷しており、契約数量の減少で入荷は減少。

4. 北洋材

シベリアの主要製材各社とも冬伐り原木の伐採期だが、対日生産量自体は、まだそれ程上がっていない。アカマツ原木の品質が低下し、上級グレードの数量が減り、下級グレードが増えている。極東での輸出クォータ枠が発表され、大手 3 社 (RFP、チェルネイ、RH) が殆どを占める。現地挽き完成品は上級グレードのオファーが少なく品不足状態が継続。国内完成品は DIY 向けは好調だが、各メーカーとも原板在庫が減っており、スポット物のオファーに飛びつかざるを得ない状況である。アカマツ原木の品質低下、中国市場の不振のため、対日向けに低級品の売り込みが増えているが、これらを扱える者は少ない。2 月予想の原木入荷、出荷とも 5 千 m^3 、在庫は 13 千 m^3 。製品入荷(東京+川崎)は 18 千 m^3 、出荷 19 千 m^3 、在庫 38 千 m^3 。

5. 合板

国産材原木は依然強含みでスギとカラマツの不足感が強い。ロシア材は出材が限定的で強含み。南洋材は雨季の影響を受けず、順調な出材で価格は軟調傾向。米材は全体的に弱含みで若干の値下がりとなった。

12 月の国内合板生産量 26.5 万 m^3 のうち、針葉樹合板は 25.3 万 m^3 となった。出荷量は 25.8 万 m^3 と 3 カ月連続で出荷量が生産量を上回っている。在庫量は 15.6 万 m^3 、うち構造用合板は 12.6 万 m^3 である。針葉樹合板は年明けから少し引き合いが落ち着き、配送遅れも解消されてきた。価格は若干引き締まり傾向にある。

12 月合板輸入量は 22.8 万 m^3 で、マレーシア産の輸入は少なく、インドネシア産が過剰気味といえる。輸入合板は今まで不足感のあったコンパネ、ラワン構造用の入荷があり、品不足は解消された模様。産地インドネシアでは降雨が出材に大きく影響を与える程でなく、各工場の原木在庫に逼迫感は出ていない。一方、マレーシアでは原木在庫が減少傾向になっている。旧正月を控え原木確保が難しくなり、生産への影響が懸念される。針葉樹合板の販売

価格は徐々にメーカー打ち出し価格に戻りつつあり、配送遅れで残っていた安値も殆どなくなった。しかし先行き、2月の荷動きや3月の大手問屋の展示会の動向次第では、価格変動が起こる可能性も考えられる。

6. 構造用集成材

ラミナの入港は順調である。好調であった欧州ラミナメーカーの米国、中国向けが落ち着き、日本向け市場への売り込みが増えてきた。第1・四半期以降積みの産地価格はWW柱が据え置きだが、RW平角は前回比5~10ユーロ/m³以上の値下がりとなった。輸入集成材の12月入港は少な目で、2月の日欧経済連携協定発効の関税緩和(4.8%→4.2%)を受けて、先物価格は6万円/m³を下回る可能性も出てきた模様。

7. 木材チップ

チップ原木の奥山出材は減少だが、想定範囲内。既存のバイオマス発電所が増設計画を打ち出しており、素材業者の困り込みが鮮明になっている。解体材の入荷は災害木の入荷も落ち着き、ほぼ例年並み。製紙用の国内針葉樹チップ使用量の増加傾向は変わらず、各社とも増集荷基調で推移。燃料用チップは製紙用チップは工場毎に増減のバラツキが多い。燃料用は各社余剰が強く在庫置き場の確保に苦労。

8. 市売問屋

東北、北陸地方の大雪で原木が凍結しているため、製材品の入荷量が少なく、貫、胴縁等の羽柄材の不足が深刻化している。製材所では注文残があり、新規注文をストップせざるを得ない状況。製品市場でも電話での予約が多くなってきた。構造材は国産材、外材とも増改築分しか荷が動かず、造作材も量が裁けない。

9. 小売

年末からの繁忙感は一服し、2月は落ち着いてきた。スギ貫は依然として入荷が少なく引き合いも強い。母屋角も入荷するとすぐに出してしまう。価格は強含み。米ツガ割物の品薄感は徐々に解消されているが、十分な在庫は確保されていない。米ツガ一部の割物に依然品薄感はある。欧州材は利物の入荷が少なく強含みで、スギ等へのシフトも見られる。針葉樹合板は年明け後、動きは鈍くなったが、入荷は少なく強含み。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産) 同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗ →
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→